

かけはし



For our Future

～私たちが想う未来へ～



- P2.3 「ひこねからはじめよう！
多様性あふれる社会づくり」
- P4.5 「子どもとの関わり方
～関わり方で彦根が変わる～」
- P6.7 「編集委員の私たちがみる
これから
未来の彦根」

【編集・発行】

彦根市男女共同参画センター「ウィズ」

〒522-0041 彦根市平田町670

TEL/FAX 0749-24-3529

E-mail with.hikone@oboe.ocn.ne.jp

【編集委員】 小林 真紀子、前田 智博

【表紙 写真】 彦根の子どもたち

令和4年3月1日発行

ひこねからはじめよう！多様性あふれる社会づくり

多様性 ダイバーシティ

という言葉聞いたことはありますか？

たとえば、あなたにとって「普通や当たり前」なことがほかの誰かにとっては、「普通や当たり前」ではないという事例がこの世界にはたくさん存在します。なかには多数派（マジョリティ）にとって「普通や当たり前」であるため、少数派（マイノリティ）の人たちが社会で受け入れられず、悩み苦しむばかりか、差別や迫害の要因にされることもあります。慣習や固定観念にとらわれず、誰もが住みやすい地域社会をつくるということはSDGs^{*1}の「誰一人取り残さない」という理念に則った社会づくりそのものではないか、と考えています。

ダイバーシティ
ってなに？



^{*1} 2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のこと。[外務省より]

その中で、今回は“出産”に関する3つのトピックにまつわる多様性に注目します。

〈1〉#リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは、人が生涯にわたって性と生殖に関して身体的精神的社会的に良質な健康環境にあること、その権利を表わす言葉です。1970～90年代は、性経験が「早いほど良い」という風潮にあったようですが、近年は性経験のない未婚者割合は上昇に転じ、2015年の調査において18歳～34歳の独身者のうち男性は42.0%、女性は44.2%の人が性経験のない未婚者であることが明らかにされました^{*2}。

この数値に対し、その年齢にあたるAさん（20代）は、恋愛に関する心境を語ってくれました。

結婚や出産に憧れるが、これまでの恋愛のなかでセックスまでのビジョンはなかった。また、仕事や趣味で生活が充実して「相手がいらない」ことに慣れてしまっている自分がある。一方で、社会人になり学生の時よりも出会いを見つけにくいことに気づいたが、コロナ禍でさらに人との出会いが制限され日々焦りを感じている。



さまざまな性のあり方があり、そもそも「性交」「結婚」「出産」を望まない人もいます。本人の理想や目標ではなく、第三者（社会）が一概に「〇歳まで」というボーダーを決めるべきではないでしょう。

^{*2} 第15回出生動向基本調査における独身者調査において、18～34歳の未婚者（5回の調査における客体は男性24,940名、22,398名）に対し、設問「あなたはこれまでに異性と性交渉をもったことがありますか。」（1.ある、2.ない）をおこない、回答を得たもの。

〈2〉#パタハラ

「パタハラ^{*3}」は、出産ケアや育児のため休暇や時短勤務などの制度を希望・利用する男性に対する職場の同僚や上司、他者からの嫌がらせを示す言葉です。

ある職場では、男性職員が出産ケアのため1か月程度の休暇を取得した例がありました。これを別の職場の人々に話すと「いいな～休みがとりやすくて」という言葉が多数を占めました。このような表現でも、パタハラになることがあります。あなたの職場でパタハラはありませんか？一度、ふり返ってみてください。



^{*3} パタニティ・ハラスメントの略。

〈3〉#不妊治療保険適用

不妊治療はこれまで、美容整形等と同じく“自由医療”扱いだったため、50万円以上の自己負担がかかる事例もありました。しかし少子高齢化への問題意識の高まりから、「生殖医療の支援拡充」の一策として2022年4月より不妊治療の保険適用化がスタートします。

Q1 そもそも不妊症って？

A 妊娠を希望し健康な男女が避妊をせず性交するものの、1年以上妊娠しない状態のことです。日本では初婚年齢が高くなる「晩婚化」が進み、不妊症の患者数は60万人を超え、日本の夫婦の5.5組に1組が不妊症にあります。

Q2 不妊治療についてなにが問題なの？

A 出産にかかわるため女性の問題と思われがちですが、実は不妊の原因の約半数は男性側にあります。それでも不妊治療による心身の負担は女性の方が圧倒的に大きく、在職しながら治療をおこなう女性の20%は、仕事との両立に悩み退職や転職を余儀なくされています。退職者にかかった育成費用と新規採用・育成費用を合算すると、およそ2,083億円^{*4}となり、高額な経済損失にもなっています。

^{*4} NPO法人Fine調べ

Q3 不妊治療の保険適用化のメリットは？

A 保険適用化による第一のメリットは、経済的負担が軽減される医療費助成です。妊活をしながら仕事を継続できることが理想ですが、不妊治療への理解や知識、情報は当事者や生殖医療関係者でないとわからないことが多く、企業や自治体の制度、環境整備が不十分であるのが現状です。まずは、当事者における負担の要素を軽減させることが、今後の生殖医療に対する理解を社会に浸透させる先駆けになるでしょう。

インタビュー協力者



川口 優太郎さん

〇理学修士。東京都を拠点に全国区で不妊治療の臨床現場に携わるほか、医療監修や生殖医療関連の講演など幅広く活躍する。
〇企業向けの妊活・不妊治療福利厚生サポート『WanaB（ワナビ）』の提案で彦根の未来を創るアイデアコンテスト2021ノミネート！

編集委員から一言

“出産”にまつわる3つのトピックを紹介しましたが、共通することは「ひとの数だけ多様性がある」ということです。「産める／産めない」という条件的な選択肢だけではなく、「産む／産まない」という個人の自由な意思にもとづく選択肢があります。自身やパートナーのカラダやココロが「異性」に限らない、ということも現代社会において欠くことのできない要素になります。その先駆けに彦根市では、県内初の取り組みとして「彦根市パートナーシップ宣誓制度」を2021年10月1日から開始しました。

とはいえ、まだまだ私たちの目に見えていないマイノリティもあります。「誰ひとりとして同じでないことは、昔も今も、これからも変わらないこと」ですが、多様性が重んじられる現代だからこそ、私たちはいま一度お互いの価値観を見つめ、認め合い、アクションすべき時代に立っているのではないかと期待しています。

男女平等って大人だけの問題と思いませんか？

実は、そんなことはありません。
子どもたちのコミュニティでもジェンダーに対して悩んでいるのが現状です。
子どもは、なにをするにも大人の「真似」から始めます。



真似をするという行為^{*1}は、人間にもともと備わった**本能**です。生まれたばかりの赤ちゃんでも、顔を動かしたり、舌を出したり、一生懸命、パパやママの真似をしようとします。
どうして、子どもは真似をしようとするのでしょうか？それは、相手の真似をすることによって、その行動がどんな意味を持っているのか確かめようとしているからです。どんな背景があって相手がその行動をしているのか、自らが経験することで学ぼうとしているのです。
ただ、やみくもになんでもかんでも真似をしようとする訳ではないようです。

欧米の研究によると^{*2}、子どもは、大人の行動に対して、なぜその行動をとるのか理由がわからない場合に、真似をするそうです。子どもは、パパやママを通じて、自分が生きている世界を徐々に広げ、その中で新しいパターンに出会ったり、今までの自分の経験では理解できないと思うことが起こります。すると、「なぜパパやママは、この行動をしたんだろう!?何か意味があるはずだ!」と思って、真似をして、その**行動の背景を知ろう**とするのです。子どもは、大人の行動をしっかりと見ています。

^{*1} 出典元：子どもはなぜ大人たちの真似をするのか？ - こころの探検 (kokoronotanken.jp)
^{*2} ロンドン大学でヴィクトリア・サウス博士によって行われた研究 (Southgate, V., Chevallier, C., & Csibra, G. (2009). Sensitivity to communicative relevance tells young children what to imitate. *Developmental Science*, 12(6), 1013-1019.)

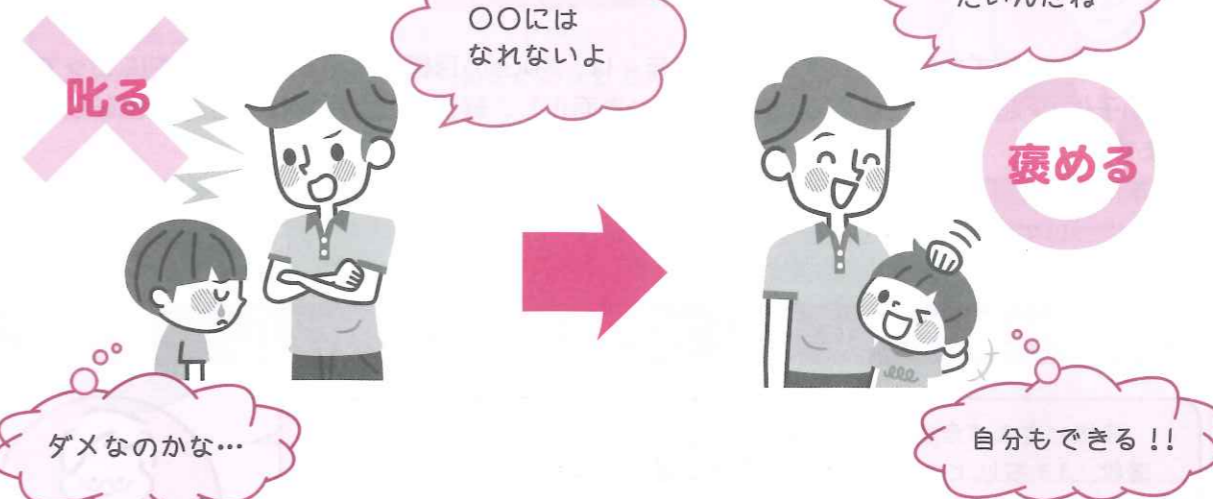
彦根の子どもたちも思っています!!



※彦根の子ども達から聞きました

価値観を押し付けない子どもとの関わり

世界から学ぼう!!



ノルウェーの学校では、叱るよりも褒めて伸ばす文化。
子どもを厳しく叱りつけたり、『子どもはこうあるべき』というように価値観を押しつける接し方はしません。
大人たちは相手を**承認**し、一人ひとりの個性を否定せずに接するようにしています。
なりたい**職業**についても、女の子が野球選手や大工になりたいと言ったり、男の子がお花屋さんや保育士になりたいと言っても先生や親は、「女の子だから、男の子だからOOにはなれないよ」という発言はせずに、本人が今やりたいことを大切にするような接し方をしています。

彦根でこんな活動がされています

『彦根虹の架け橋プロジェクト』



彦根市7中学校共通テーマ「認めよう みんなの個性 つなげよう 笑顔のピース」

「彦根虹のかけ橋プロジェクト」とは、市内の7つの中学校を7色の虹にたとえ、みんなでいじめ問題について考えるプロジェクトです。
市内の中学生たちが、一人ひとりの**個性**について考え、「認め合える関わり方ってどんな形なんだろう?それを承認できるようにしていくにはどんな方法があるのだろうか?」など、**子どもたちでディスカッションする取り組み**があります。
周りとは違う子=変な子ではなくみんながそれぞれ違う個性でそれを認め合う学校づくりを子どもたちの手で実際に行っています。

編集委員から一言

これからの日本、彦根を支えていくのは私たち大人だけではなく、子どもたちも担っていくのです。未来の彦根がジェンダー平等で性別に関係なく支えあって生活できるかどうかは、大人たちの子どもへの接し方で変わってきます。なんの差別もない世界を彦根からつくってみませんか?

編集委員の私たちが思う



これから
未来の

彦根

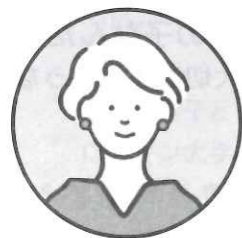
いま日本のみならず世界が注目する「2030年」は、SDGsの目標達成年であり、日本にとって「人口減少」「少子化」「超高齢社会」がこれまで以上に表面化し、経済や社会保障に大きな影響を与えるとされています。

2030年において「働き手」と「子育て層」の前線に立つ私たち20代が、“いま”を見つめ直し“これから”の彦根について考えてみました。

Q 彦根×働き方についてどう思いますか？

彦根と言えば彦根城、そして城下街。外側の二の丸には、槻御殿や藩校、1千石以上の家老など重臣たちの屋敷が置かれた武家町が形成されていました。中堀の外側は「内町（うちまち）」と呼ばれ、1千石未満の中級の藩士や町人、魚屋町や桶屋町などいわゆる「職人町」という印象が強いです。

彦根で働いている人たちは、昔も今も男女関係なく協力し合って仕事をされている印象です。



彦根は一度リタイアされた高齢の方も、再就職やまったく新しい分野に挑戦されたりと、フレッシュに働かされている印象があります。男女差・年齢差を越えた働き方ができる地域性は魅力的です。

製造業や小売業が多いので、パートタイムで働いている人が多いです。彦根を含め滋賀県は最低賃金が全国的には高い地域ですが、正規／非正規の賃金・福利厚生之差は持続的な働き方を考えるうえで重要だと思います。

Q 彦根×子育て参画についてどう思いますか？

保育士をしている知人から「パパの送迎も多いよ」と聞きました。商業施設ではお父さんと子どもや、おじいちゃんと孫で買い物されている様子も見かけます。

また、地縁が希薄化する現代ではありますが、地域活動を通じて学区を越えたヨコのつながりをつくりやすいのも、広すぎず狭すぎない彦根という地域ならではの特色のように感じます。



私が住んでいる町では、性別に関係なく子育てに参加されているイメージがあります。休日の公園でも父親が積極的に子どもたちと遊んでいる光景を目にします。

ただ、男性の育児休暇を積極的に取っているといった話は、あまり聞きません。なかなか取りにくいのが現状だと思います。

Q 今後、どんな彦根になってほしいですか？

老若男女関係なくみんなが笑顔で生活できて、なにをするにも全員で協力して生活できるそんな町になってほしいと思います。
その為には、ジェンダー平等について現状をしっかりと市民一人ひとりが自分ごととして考えていく必要があると思います。



「11万人11万色」の個性あふれるまちで、市民一人ひとりがそれぞれの価値観のなかでも、彦根の「好きなところ」をひとつでも自信をもって言い続けられるまちになればいいと思います。
ちなみに私は「都会すぎず田舎すぎない“ほどよく”住みやすい地域感」が好きです。同時に、そんなまちの雰囲気を持続させるのが私たちの使命であると実感しています。

ちなみに…

日本のジェンダーギャップ指数2021

120位 / 156か国

経済 117位

政治 147位

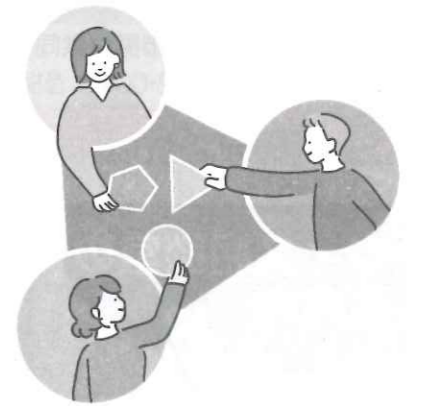
教育 92位

健康 65位

ジェンダーギャップ指数は、国際機関WEF（世界経済フォーラム）が経済・政治・教育・健康の4分野14項目のデータから各国の男女格差を分析した指数です。この指数は各分野での国の発展レベルを評価したものではなく、純粋に男女差だけに着目して評価をしていることが特徴です。

「そんなに低いの…?」と普段の生活からはあまり実感が湧かない人もいるかもしれませんが。ただ経済面の「女性管理職率が低いこと」政治面の「女性議員が少ない・女性首相がないこと」は、日本にとっては慢性的でも世界のなかでは異例とされています。

とはいえ、今ある男女のポストをぐっさり変えることが正解とは限りません。一人ひとりが自分の個性〔得意なこと苦手なこと〕をもちより地域や社会を共創すること、そのうえで発生する格差や不便さ、障害を少しずつでも着実に取り除くことが重要だとされます。それは国レベルだけでなく市民の生活レベルでも該当することです。



あなたが思い描く彦根の未来はどんなものですか？

第36回
彦根市男女共同
参画フォーラム

多様性の中に生きる！
「当たり前」をイノベーション！
男女共同参画のヒントを探る

違和感は3つ以上重なると 気にならなくなる

2022年
(令和4年)

3/6 日

ひこね市文化プラザ メッセホール

13:00-15:00 開場12:30

- 13:00 - 開会のあいさつ
- 13:10 - 男女共同参画川柳表彰式
彦根市男女共同参画事業者表彰
- 13:30 - 講演(90分)
- 15:00 - 閉会

入場無料

事前申込先着 150名

手話通訳あり

託児無料(要予約)
お子様連れでの参加も可能
(親子席あり)

申込はこちらから



※ 新型コロナウイルス感染拡大防止として、来場者には検温・アルコール消毒・マスク着用・ソーシャルディスタンス確保のご協力をお願いします。

※ 新型コロナウイルス感染症感染拡大等の状況によっては中止となる場合や内容が変更されることもございます。

首藤 義敬 Yoshihiro Shuto
(株式会社Happy代表取締役)

1985年生まれ。育児と介護のダブルケアを経験し、2017年神戸市長田区に高齢者向け介護付きシェアハウス「はっぴーの家ろっけん」を開設。年代・国籍を問わず、入居者以外にも多様な人が集まっている。日本が抱える様々な課題をユニークなアイデアで解決しているとメディアや全国の様々な分野から注目を集めている。

はっぴーの家ろっけん

問合せ先 彦根市男女共同参画センター「ウィズ」

〒522-0041 彦根市平田町670 TEL&FAX 0749-24-3529 E-mail with.hikone@oboe.ocn.ne.jp

ウィズ相談室の
ご案内



総合相談

- * 面接相談
- * 電話相談
- 水・木・金 13:00~16:00
(最終受付は15:30まで)

専門相談(こころの悩み・法律相談)

- 毎月1回: こころの悩み相談
- 毎月1回: 法律相談
- ※総合相談での予約が必要です。

専用ダイヤル 0749-21-5757 ☆相談は無料です。プライバシーは守られます。☆